

様式第3号

会 議 録

会議名		第1回川西市行財政改革審議会	
事務局(担当課)		総合政策部行政経営室経営改革課	
開催日時		平成29年5月22日(月) 18時30分から20時30分	
開催場所		市役所4階 庁議室	
出席者	委員	上村 敏之 委員、和田 聡子 委員、田辺 彰子 委員、 國津 元司 委員、三好 公一 委員、武内 秀男 委員、 吉田 誠 委員、真鍋 由香里 委員	
	その他		
	事務局	松木総合政策部長、作田行政経営室長、的場経営改革課長、 船木財政課長、大村経営改革課長補佐、中村、多田	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長あいさつ 4. 委員紹介 5. 議事 6. 閉会 	
会議結課		別紙審議経過のとおり	

審議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>ご案内しておりました時間がまいりましたので、「第1回川西市行財政改革審議会」を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会をさせていただきます、川西市総合政策部行政経営室経営改革課の大村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、当審議会は「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項の規定に基づきまして、公開となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、まずはじめに、委員の皆様へ「川西市行財政改革審議会」の委嘱状を大塩市長より交付させていただきます。</p> <p style="text-align: center;">◎委嘱状交付</p>
事務局	<p>続きまして、大塩市長より、皆様へご挨拶を申し上げます。</p>
大塩市長	<p style="text-align: center;">◎大塩市長挨拶</p>
事務局	<p>では次に、委員のご紹介をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">◎委員紹介</p>
事務局	<p>では、引き続きまして、会長及び副会長の選任について、事務局よりご説明をさせていただきます。</p> <p>お手元に配付しております「川西市行財政改革審議会規則」の第5条の規定に基づき、当審議会の会長及び副会長を選任する必要があります。</p> <p>つきましては、「会長及び副会長の選任」についてお諮りしたいと存じます。</p> <p>同規則第5条では、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める。」と規定しておりますが、本日が初めての顔合わせでもございますし、事務局から推薦させていただいたうえ、ご承認を得たいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〈異議なし〉</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、事務局の方からご提案させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、会長には「上村 敏之委員」、副会長には「和田 聡子委員」をご推薦させていただきますが、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〈異議なし〉</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、委員の皆様にご承認いただきましたので、会長を上村委員に、</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>副会長を和田委員にお引き受けいただくことといたします。 上村会長、和田副会長、恐れ入りますが、お席の移動をお願いいたします。</p> <p>◎会長・副会長、指定席に移動</p> <p>それでは、会長、副会長より一言ずつご挨拶を頂戴したいと存じます。 恐れ入りますが、上村会長からよろしくをお願いいたします。</p> <p>〈会長挨拶〉</p> <p>ありがとうございました。 続きまして、和田副会長よろしくをお願いいたします。</p> <p>〈副会長挨拶〉</p> <p>ありがとうございました。</p>
事務局	<p>次に、当規則第2条に基づき、大塩市長より、審議会に対し、諮問をさせていただきます。</p>
事務局	<p>それでは、大塩市長、上村会長よろしくをお願いいたします。</p> <p>〈諮問〉</p>
事務局	<p>ここで、大塩市長は別公務の都合により退席させていただきます。ご了承願います。</p> <p>〈市長退席〉</p>
事務局	<p>それでは、ここからの進行は会長をお願いいたします。 上村会長、どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>ただいま、当規則に基づき、この会に対して市から諮問を受けました。委員の皆様の活発なご意見を集約して、川西市行財政改革後期実行計画の策定に向け、答申をまとめてまいりたいと思います。</p> <p>なお、本日の会は会議時間を概ね2時間程度とし、午後8時30分を閉会の時刻として進めてまいりたいと思います。何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、本日の議事に入る前に、「会議公開及び会議の傍聴」についてご確認いただく必要があります。</p> <p>お手元に配付しております「川西市行財政改革審議会 会議公開制度運用要綱」及び「川西市行財政改革審議会の会議公開に係る傍聴要領」について、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、ご説明申しあげます。 お手元の資料「川西市行財政改革審議会 会議公開制度運用要綱」を</p>

発言者	発言内容等
	<p>ご覧ください。</p> <p>当審議会は、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条に規定する附属機関等に該当し、市は附属機関等の会議を公開することと規定されております。</p> <p>つきましては、法令等に規定があるものを除き、会議の公開が義務づけられておりますことから、「川西市行財政改革審議会 会議公開制度運用要綱」におきまして、附属機関等の設置状況をはじめ、会議の開催日時等を公開する旨について、規定しております。</p> <p>また、会議録については、発言要旨を事務局でまとめ、各委員の発言については名前を伏せることとし、また、その承認については、会長の承認で行うことを想定しております。</p> <p>続きまして、傍聴要領についてでございます。お手元の資料「川西市行財政改革審議会の会議公開に係る傍聴要領」をご覧ください。</p> <p>ここでは会議に係る傍聴手続きをはじめ、傍聴に関する必要な事項を規定しております。</p> <p>以上、簡単ではございますが、会議公開、会議の傍聴に関する説明とさせていただきます。恐れ入りますが、詳しくはお手元の会長資料をご清覧くださいませようお願いいたします。</p>
会長	<p>ただいまの説明について、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>〈質問なし〉</p>
会長	<p>今後、本審議会はこの要綱・要領に沿って運営することといたします。事務局におかれましては、事務処理等についてよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは続きまして、「川西市の現状について」、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは「川西市行財政改革大綱」「川西市行財政改革前期実行計画」について、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、お手元に配布しております「川西市行財政改革大綱」からご説明させていただきます。</p> <p>行財政改革大綱の1ページ、2ページの部分でございます。本市では、昭和60年度に策定した「第1次川西市行政改革大綱」以降、社会経済情勢の変化に対応するため、大綱、計画に基づいて行財政改革に取り組んでまいりました。そして、平成25年度から10年間のまちづくりの方向性を示す第5次総合計画のスタートに合わせて、同じく10年間の「川西市行財政改革大綱」を策定いたしました。</p> <p>次に3ページの部分でございます。行財政改革大綱では、歳出の抑制や歳入の確保に向けた取り組みに加えて、参画と協働を基本とした市民と行政の役割分担などを含めて、4本の柱を掲げました。</p> <p>1点目が「参画と協働のまちづくりの推進」</p> <p>2点目が「革新し続ける行政経営の推進」</p> <p>3点目が「持続可能な財政基盤の確立」</p> <p>4点目が「機動的な組織体制の構築と人材の育成」になっております。</p>

発言者	発言内容等
	<p>行財政改革大綱では4本の柱を含めまして、本市の行財政改革の基本的な方向や考え方を定めたものとなっております。</p> <p>次に4ページ以降でございます。大綱の計画期間は平成25年度から平成34年度の10年間となっておりますが、大綱に基づいた実行計画については、平成25年度から平成29年度までを前期実行計画、そして、前期実行計画の進捗状況等を踏まえて、この度、皆様にご審議いただく実行計画が平成30年度から5年間の後期実行計画になります。</p> <p>なお、行財政改革の内容につきましては、4本の柱ごとに4ページ以降に記載しています。</p> <p>以上が行財政改革大綱の説明でございます。</p> <p>続きまして、「行財政改革前期実行計画」の説明に移らせていただきます。</p> <p>まず、1ページの部分でございますが、主に大綱の内容となっておりますので、省略させていただきます。</p> <p>2ページの前期実行計画の進捗管理、計画のローリングについてでございますが、前期実行計画に掲げた項目につきましては、毎年、実行内容の具体的な成果と課題を検証することとしており、また、計画期間中であっても新たな行財政改革の取り組みについては新規追加し、目標を達成した項目は削除するなど、計画を策定した時の項目にとらわれることなく、毎年柔軟に見直しをおこない、実行していく仕組みにしています。</p> <p>3ページから9ページの本市の財政状況についてでございますが、前期実行計画策定時の財政状況になっており、また、現在の財政状況については後ほどご説明させていただきますので、省略させていただきます。</p> <p>次に10ページ以降の職員定数管理計画についてです。</p> <p>前期実行計画の中には職員定数管理計画を含めており、当然、行財政改革を進めていく上で職員数の管理は大変重要であると認識しておりますが、前期実行計画の効果額には職員数の減少分は含まれていないことから、後期実行計画の中には職員定数管理計画は盛り込まず、別途市の方で作成する方向で考えております。</p> <p>なお、委員の皆様方には審議会の中で職員の適正化に向けたご意見を頂戴することになりますが、具体的な職員数までのご審議いただく必要はございませんので、その点については申し添えさせていただきます。</p> <p>次に13ページからの前期実行計画の具体的な取組項目でございます。行財政改革大綱の4本柱をもとに、前期実行計画期間における具体的な行財政改革の取り組み項目、内容、そして効果額を13ページから17ページに記載しております。その項目を一覧にしたページが18、19、20ページとなっております。</p> <p>以上、行財政改革前期実行計画の説明とさせていただきます。</p> <p>次に、「前期実行計画の取組状況」でございます。委員の皆様にご配布させていただいております資料1は前期実行計画期間中に実際に取り組んできた、または取り組んでいる内容となっております。また、資料2は5年間で取り組んできた内容の効果額の進捗状況をまとめたものとなっております。詳細の説明については省かせていただきますが、参考にご覧いただければと</p>

発言者	発言内容等
	<p>思います。</p> <p>続きまして、資料3の川西市中期財政運営プランの説明をさせていただきます。</p> <p>1 ページ目では、期間中の収支の全体像を示しています。期間は平成29年度～33年度の5年間です。その下に中期財政運営プランの目標3つを掲げています。その下の左の表をご覧ください。一番上左側の表は平成28年度～33年度までの収支推計を掲載しています。この推計は表の右隣にある「収支推計のポイント」の5点を前提要件として推計したものです。</p> <p>1つ目として、金額は一般財源ベースで推計しています。一般財源は市税や地方交付税、国からの譲与税など使途の制限が無い財源です。歳入ではそういった財源がどの程度入ってくるか、歳出では事業をするうえで、その一般財源がどの程度必要であるかというものを推計しました。</p> <p>2つ目は、平成28年度決算見込み額をベースに推計をしています。直近の確定した実績を基に推計しています。</p> <p>3つ目が税制等、制度改正が予定されているもののうち、影響額が推計可能なものは計画に反映しているということです。</p> <p>4つ目が経済成長による物価変動は歳入歳出ともに見込んでおりません。</p> <p>5つ目は、消費税率の改定の延期と社会保障充実分の財源です。消費税率改定の延期により、地方消費税交付金に変わる財源手当の方法に不確定要素はありますが、この推計では地方交付税の算定に反映するものということで推計しております。この点は後程ご説明しますが、平成29年度の予算編成を経た後は地方交付税が増加すると見込んでいた部分について、増加する見込みがたっておりません。</p> <p>これら5つを前提要件として行った推計結果が左の収支推計の表です。4段目の収支差引の欄をご覧ください。平成28年度の決算見込みでは△1,270となっておりますが、これは12億7000万円収支が不足するということとございます。見て頂くと収支不足の数字が徐々に減っておりますが、33年度になっても1億1200万円の収支不足が続いています。収支不足を解消する取り組みが必要となっております。</p> <p>収支改善に向けた取り組みとして実施することとしておりますのが、下の表にございます、①行財政改革の推進、②未利用地の有効活用、③未利用地の売却、というこの3点を行う事としております。</p> <p>①行財政改革の推進は、業務委託等の民間の活用や歳入の確保等による効果額を計上しております。</p> <p>②未利用地の有効活用では、利用していない市有地を有効利用し、市債を発行して借り入れを行い、長期的な資金繰り、負担の平準化をしようとするものがございます。左の表で効果額がマイナスとなっておりますが、効果額の一部を積み立てるなど、積立金としての支出などをマイナス計上としております。</p> <p>③未利用地の売却でございますが、市有地等の売却により財源を確保しようというものです。29年度30年度につきましては、キセラ川西の区画整理している中での市有地、31年度～33年度にかけては文化会館の跡地、</p>

発言者	発言内容等
	<p>分庁舎の跡地の売却を計上してございます。</p> <p>左の表に戻ると、これら3点の収支改善に向けた取り組みの結果、①～③の反映後収支差引とありますが、平成28年度、29年度は収支不足が続いておりますが、30年度にはプラス1億4800百万円ということで収支がプラスになり、その後は収支が均衡するというようにしております。</p> <p>また一番下の行では基金残高の見込みを表記しておりますが、31年度まで減少が続いていますが、その後、残高はほぼ20億円という水準で続く見込んでおります。</p> <p>次に2ページ目をご覧ください。収支推計の内訳でございます。一番上の表が歳入となっております。この歳入は一般財源ですが、その内訳は上から市税、地方交付税・臨時財政対策債、地方譲与税・税交付金・基金繰入金の3つです。</p> <p>特定の事業を行うと、その事業費の一部、たとえば2分の1とかの収入が入ってくるような国・県の負担金。あるいは行政サービスを行った事により対価として入ってくる収入。例えば住民票の発行手数料とか体育館の使用料。それらは特定財源と呼ばれまして、使途が決まっておりますので、ここには計上しておりません。</p> <p>まず市税については、部分的な増加要素というのがありますが、概ねは高齢化に伴って給与収入を受けておられる方が減少して年金収入の方が増える影響によりまして、市税収入は概ね減少傾向にあります。</p> <p>地方交付税、臨時財政対策債はある程度増加しているの見込んでいます。しかし、性格上市税の減少などによる収支不足の一部を補てんするということからして、市税が減っていることをすべてカバーするかといいますと、そういうことではありません。また、この項目におきまして1ページ目で説明させていただきましたが、地方交付税につきましては社会保障経費の増額を財源として増額すると推計していたのですが、現時点では増額は見込めておらず、記載の金額が現時点の見込みより多くなっているというのが今の認識です。</p> <p>次の地方譲与税等につきましては、地方消費税交付金を要素に含んでおるのですが、31年10月の消費税率改定の影響が32年度から現れますので、そこから増加していくと見込んでおります。</p> <p>ただし、これも社会保障制度の充実によって歳出が増加しますので、その分歳入歳出どちらも増えるということで収支の解消ということに寄与する事ではないと考えています。</p> <p>次に歳出の内訳です。</p> <p>社会保障費からその他経費まであります。それぞれ必要金額を見込んで、そのうち市税等で賄わなければならない一般財源を計上しております。</p> <p>社会保障費につきましては現在の制度が続くという前提で作っており、増加するであろうと考えています。</p> <p>人件費につきましては29年度現職員の総数が何人になると見込みをして、その後は同じように考え、あとは定年退職と退職に伴う新規採用や再任用職員を見込んで推計をしております。職員の世代交代などの影響で30年度までは減少して行きますが、その後は横ばいになっていくと見込んでおり</p>

発言者	発言内容等
	<p>ます。</p> <p>公債費について上段の方は27年度までに借入れた市債の返還。そちらを見て頂くと、過去のものも含んでおりますので、返還が終われば急速に減少していくというものもあります。</p> <p>しかしながら、臨時財政対策債や今やっております土地基盤整備や公共施設の更新等、必要なことを実施するため、28年度以降新たに発行する市債の返済というのも含めて公債費全体を見ますと27年度以前に発行したもののほど急激な減少ということではありません。徐々に減っていくと見込んでおります。</p> <p>次に投資的経費についてでございます。</p> <p>インフラや施設整備に係る経費ですが、ここでは市内全般の道路や公園、施設の大規模な修繕などです。毎年おおむね同程度の金額を必要とするものを計上しています。</p> <p>また、総合計画実現の為の経費につきましては、ハード・ソフト両面にわたり、新規事業に必要な一般財源の額を一定4億円ということで計上しております。補助費等は民間企業や地縁団体の補助金だけでなく、水道会計や市の公社、施設組合等の団体への補助金も含めて推計したものでございます。市の公社やゴミ処理施設組合の補助等については減少を見込んでいるので反映しております。</p> <p>その他については、事務処理経費や民間事業への委託料、施設の維持補修費などを計上しておりますが、大幅な増減はないと見込んでおります。</p> <p>その下の収支差引の欄については1ページ目と同じ数字です。</p> <p>また、基金の積立金についてはプラスマイナスの内訳を示しております。</p> <p>右側については財政運営プランを実施した場合の財政指標等を計算しておりますが、今回はこちらについての説明は省略させていただきます。</p> <p>以上が昨年11月に策定しました中期財政運営プランです。推計によって見込まれる収支を未利用地の売却等の収支改善の取組みを行って補填し、30年度からは収支均衡をしているという内容でございます。</p> <p>次に資料4で、その後の修正の説明をさせていただきます。</p> <p>昨年11月のプランの策定後、国から地方財政計画というもので平成29年度の地方財政全体の財源フレームというのが提示されまして、本市においてもそれらを参照しながら29年度の当初予算の編成を行いました。</p> <p>国が示しました地方財政の財源フレームは、一般財源総額が社会保障の増加分を含めて28年度と同程度の金額を確保するという内容となっております。中期財政運営プランに見込んでいたような社会保障の増加において、地方交付税が増額されるというようなことは期待できないという内容となっております。</p> <p>その内容を含んで修正をさせていただいたのが資料4となっております。</p> <p>表の見方ですが、まず左の「プラン」と記載している欄については、先ほどの資料3の中期財政運営プランの金額をそのまま入れています。</p> <p>「(修正)」と記載している欄が、地方交付税の増額は無いという事で見直しをして、歳入が元のプランよりも減額となる場合の修正後の金額を記載して</p>

発言者	発言内容等
	<p>おります。</p> <p>一番上の表のA欄はプランで計上していた歳入でございます。</p> <p>その中に地方交付税が増額するであろうという見込みの金額を入れておりまして、それがB欄の金額です。29年度で2億1900万円、30年度で4億1700万円、31年度で6億3900万円、それ以下も同額と見ておりました。</p> <p>C欄は差し引いて修正した歳入の金額でございます。</p> <p>D欄については、プランの歳出金額をそのまま計上してございます。</p> <p>上から2番目の表は上の表の歳入と歳出を算出した式を示しております。</p> <p>E欄は元の歳入歳出ですので、プランの収支差引と全く同じになっております。</p> <p>F欄が歳入を修正した後の金額なので、収支が悪化しております。</p> <p>3つめの表のG欄の財源対策といいますのは先ほどのプランでの財源収支改善の取り組みの数字をそのまま入れております。</p> <p>一番下の表は財源対策を行った場合の最終的な収支はどうかというものを示しております。</p> <p>H欄はプランの最終の数値そのままですが、I欄では歳入が減額になると見直しをした後については、財源対策が全て計画どおりに実施できたとしても5年の期間は収支不足が解消できないというだけでなく、金額を見ていただくと30年度～33年度にかけて収支の金額が拡大してしまう恐れがあるというふうに見込んでおります。</p> <p>以上が現在、そして将来を見通しました本市の財政状況でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明についてご意見を伺いたいと思います。何かございますか。</p>
委員	<p>今の説明の中で、市民病院関係の費用の削減は反映されていないのか。</p>
事務局	<p>この段階では反映されていない。</p>
委員	<p>予定としては4年後くらいか。</p>
事務局	<p>数字が反映されるのは平成31年4月から指定管理を始める予定ですので、そこからになります。ただし、補償等の別の費用も生まれると予想しているので、実際の効果額が出てくるのは2年ぐらい先になってからだと考えている。</p>
委員	<p>さきほど前期実行計画の進捗状況について説明いただいたが、PDCAサイクルでも毎年検証されていると思う。ここで達成率がすごく低いものについて主な原因を教えてください。</p>
事務局	<p>達成率でいうと資料2の一番下の欄で、例えば目標に対して54.5%の</p>

発言者	発言内容等
	<p>歳入の確保がある。こちらは太陽光パネルによる歳入や税の納付を実行したが、少し高く見ていた部分が効果額として出なかったために54.5%ということになってしまった。「公有財産等の長寿命化と有効活用」は当初、未利用地の売却を予定していたが活用することになり、売却せず達成率としては34.1%になってしまった。</p>
委員	<p>今のご説明だと時期がずれて後期計画で実現するというものではないということか。</p>
事務局	<p>未利用地については活用が決まっています、太陽光も特に今の時点では後期に向けてということはありません。</p>
委員	<p>未利用地の売却は舎羅林山のことか。</p>
事務局	<p>未利用地の売却に関しては、松山浄水場を候補として挙げていたが、市で活用する方向になり、売却をしなかったということがある。舎羅林山は含んでいない。</p>
会長	<p>資料3について、目標が平成30年度での収支均衡ということであるが、残念ながら最後の資料4で説明いただいた修正後の収支見通しによると平成30年度の収支均衡は達成できないということが、非常に大事だと思う。</p> <p>それでこの収支をどう見るかだが、資料3の当初プランを見ると歳出が大きく変わらない。①行財政改革の推進はいいが、②未利用地の有効活用と③財源対策について、こちらの金額は非常に大きいのでこの部分にかなり頼ることになっている。これらを経常的にできるかといえませんが、経常的でない対策を予定して、収支を帳尻合わせするという事になっている。資料3にある目標の、「財政運営の持続性確保」ということに関して、残念ながら現状で持続性はない。</p> <p>つまり、川西市の財政は非常に厳しい状態に置かれていることがわかる。それをもとに質問をするが、基金残高は収支改善に向けた取り組みを反映したものなのかというのが1つ。もう一つは基金といってもいろいろある。減債基金もあれば特定目的基金もある。これは全ての基金を合わせた残高なのか、この点についてお聞きしたい。</p>
事務局	<p>基金について、残高は収支改善に向けた取り組みを反映したもので、内訳について特定目的基金なども全て含んでいる。</p>
会長	<p>特定目的基金を含んでいて、これだけ基金残高が下がっているということだが、まさに川西市の財政状態が非常に厳しいということを示しているということだと思う。今報告して頂いた中期財政運営プランは昨年度の予定よりも更に修正をかけて更に厳しい状態におかれているということ念頭に置いて、今後の行財政改革を考えないといけないということを認識する必要がある。</p>

発言者	発言内容等
	<p>今までの話しの中で何か質問・意見はないか。</p>
委員	<p>収支については、特別会計に持ち出しているものすべてを含んでいるということによいか。補助や繰出しなど。</p>
事務局	<p>特別会計への補助や繰出しも含めた収支です。</p>
会長	<p>他に質問等がないようでしたら、次に「後期実行計画の取組項目」について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、これから委員の皆様へ後期実行計画の取組項目につきまして、具体的にご審議していただくこととなりますが、その前にご審議いただく内容とスケジュールについてご説明させていただきます。</p> <p>資料5をご覧ください。</p> <p>本日はまず、行財政改革大綱の柱の一つでございます「持続可能な財政基盤の確立」について、審議いただくこととなりますが、詳しい内容については後ほどご説明させていただきます。</p> <p>第2回目では「組織力の向上」についてご審議いただきたいと考えております。前期実行計画の18ページから20ページで申し上げますと、大項目の4番目「機動的な組織体制の構築と人材の育成」と大項目の2番目「革新し続ける行政経営の推進」の(3)組織力の強化の内容と考えております。</p> <p>第3回目では「効率的で効果的な行政運営」についてでございます。(1)民間の活用、(2)業務の改善、効率化、(3)参画と協働のまちづくりの推進、(4)事務事業の見直しに対する考え方や視点、(5)歳入の確保の5点についてご審議いただければと考えております。</p> <p>第4回目では1回目から3回目までご審議いただいた内容を後期実行計画(素案)としてまとめさせていただいた内容をご審議いただきます。</p> <p>第5回目では後期実行計画の原案を最終審議していただき、答申をお願いできればと考えております。</p> <p>以上が審議会の内容、スケジュールとなっておりますが、事務局といたしましては計画を策定するだけということを目指してはしておらず、5年間で本市が実行していくべき内容を計画に盛り込んでいきたいと考えております。大塩市長のご挨拶にもありましたが、委員の皆様方から厳しい意見を頂戴しながらも5年間の成果につながる計画になればと考えておりますので、5回という少ない回数ではありますが、何卒よろしくご審議いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の「持続可能な財政基盤の確立」についてであります。</p> <p>先ほどの内容、スケジュールでご説明させていただきましたように業務の改善、効率化の具体的な内容につきましては、第3回目で予定しておりますので、本日は先程ご説明させていただきました本市の財政状況を踏まえ、「持続可能な財政基盤の確立」に向けて本市として取り組みを進めていく内容を</p>

発言者	発言内容等
	<p>ご審議いただければと考えております。</p> <p>まず、「持続可能な財政基盤の確立」に向けて、事務局といたしましては後期実行計画期間内に収支均衡を目指すためには、2点の取り組みを進めていく必要があると考えております。</p> <p>1つ目は、先日から新聞報道にも取り上げられました市立川西病院の改革でございます。詳しい内容については省かせていただきますが、市民が安心して暮らせる医療体制を整備するとともに、市から病院への負担額の軽減を図る改革でございます。</p> <p>2つ目は組織、定数の見直しであります。本市は課長補佐級以上の管理職数が他市と比較すると非常に多い状況であることから組織の再編と併せて、的確な管理職数に改善する必要があると考えています。また、管理職数の改善を図るとともに職員数も見直していく必要があると考えております。</p> <p>以上で事務局からの説明を終わらせていただきます。 ご審議よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>市立川西病院の改革と組織定数の見直しという事で、持続可能な財政基盤の確立ということでした。この2つの改革の効果が5年間でどこまで出るかといえば、おそらくそれほど見込めないと思っていいたいと思う。財政プランの報告を見ると非常に緊急的なものもあるので、今言っていたものでは金額的には変わらないと思う。</p> <p>ひとつ提案をしたい。この会議に臨むにあたって、兵庫県下の市町村の決算状況を見ると川西市の特徴が見えてきました。川西市のラスパイレス指数が極めて高い。ラスパイレス指数というのは、国家公務員の給与を100として、職員の経験年数、学歴などすべてを合わせて計算した時の給与水準と比較した数値を全ての自治体が出していて、川西市は102.1ある。兵庫県下で一番高いのは芦屋市で102.6。県下では第2位です。</p> <p>そういう意味では、この財政状況の下でこの給与水準を保つというのは非常に厳しいと私は考える。ぜひとも、持続可能な財政基盤の確立のところに職員人件費の見直しの項目を追加していただきたいというのが私からの提案になる。</p>
事務局	<p>会長がおっしゃったように平成28年度の時点で102.1ということで県内2位の高さとなっている。財政状況を考えると給与の部分、手当の部分の適正化を図っていく必要があると考えている。先程私が申し上げた2点に加えて重要なポイントとして捉えさせていただく。</p>
会長	<p>その他ご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>資料4をみると5年間で約30数億の財政赤字になる。それを解消するために、1年あたり5、6億円をカットしないといけない。そうじゃないと基金が破たんするということか。</p>

発言者	発言内容等
事務局	およそそういうことになる。
委員	当然カットをしないとイケない、もしくは収入を増やさないとイケないということか。
事務局	そうです。基金の残高もさして多くはないので、今のレベルを保つためにもやはりそれくらいの額はいるかと思っている。
会長	すごく厳しい状態にあるということを、ここで共有していないとイケない。
委員	市立川西病院改革ということについて、私はどういう改革か内容を知らなかったので簡単に説明いただきたい。
事務局	<p>現在、市立川西病院は市の北部にある。毎年、市から10億の補助金をつぎ込んでいる状況ですが、現在の財政状況ではかなり苦しい。これを今後も続けていくのは非常に困難であり、それと同時に建物が築33年経っており、老朽化がかなり進んでいる。そのため建替えを考えなければならない状況だった。</p> <p>今回、新聞に掲載されたが、川西市立総合医療センター構想案を出させていただいた。それは、川西能勢口駅近辺にキセラ川西というものがあり、そこに新しい病院を建てて、そこを指定管理で運営していただくというものです。同時に市の北部から公立病院が無くなることになるため、北部には急病センターを構えて、住民の救急に配慮していこうと、このような構想を立てている。</p> <p>財政への影響の話をするすると、先程申したように31年から指定管理をスタートする予定である。指定管理がスタートすれば地方交付税措置としての3億円を補助のような形で、指定管理者に渡し、政策医療（小児、救急、周産期等）を保障してもらおうという考え方です。10億円を補助しているところを3億円に切り替えて、補助額的には7億円削減できるということになる。</p> <p>ただし、31年32年については、職員が退職という事になり、指定管理者へ再就職をお願いするという非常に高いハードルもある。このあたりのことは、これから詰めて議会とも話をしながら進めていく事になる。そこには補償等も発生してくる可能性もありますので、30年、31年についての効果額は約半分くらいではないかと考えている。</p>
委員	資料7の職員数には病院の職員は入っていないのか。
事務局	資料7の阪神各市の職員数は、水道・病院の企業会計の人数は除いている。
会長	病院の改革、組織定数の見直し、職員人件費の見直しについて、おそらくそれをやったとしても、ドラスティックに収支を改善できるとは残念ながら

発言者	発言内容等
	<p>思わない。この審議会では更に踏み込んだことを考えないといけないというのが私の見立てである。先ほど市長からもあったが、今後は事務事業の見直しというところにも手を付けていかないといけないし、更なる歳入の確保ということも考えないといけないと思う。</p> <p>前期行財政改革の中で歳入の確保というのが上がっているが、具体的にどういうことをやったのか。</p>
事務局	<p>歳入の確保について、具体的な内容は資料1の2枚目(2)歳入の確保の部分です。川西能勢口駅周辺に不法駐輪が多かったことから、民間の事業者と連携し、歩道上に駐輪場を設置した。そこの違法駐車対策と、更に事業者から道路占用料が入るということで、それが金額として大きくなっている。庁舎内に広告、市民課で表示板を事業所に設置してもらい、一定の広告収入を確保するという内容を前期で取り組んできた。</p>
会長	<p>税の減免についての見直しはあったのか。どこまであるかという実態がわかっていないが、例えば固定資産税減免とかはあるところはあると思うが川西市はどうか。</p>
事務局	<p>税の減免については現時点ではやっていない。</p>
会長	<p>もし時間が許せば、減免がどういうものになっているか調べていただきたい。そんなにすごい歳入の確保にはならないと思うが、公平性がどうなのかという確認は必要だと思う。そこは見直したほうが良いと思う。使用料受益者負担ということはどう考えるかということ。</p> <p>国保については、現在どれだけ繰出しがあるのか。</p>
事務局	<p>国保の法定外の繰出しですが、平成28年度まで実施していた。平成29年度から解消されている。</p>
会長	<p>これからずっと解消できるものか。</p>
事務局	<p>計画ではそうなっているが、平成30年度から県制度に変わるが、現時点では国は行わない方針でいこうと考えている。</p>
会長	<p>イメージ的にはストックを切り売りしないと収支が均衡しないというのは持続の可能性はないという状態なので、出血を止めないといけない。地方財政はなかなか増税が難しいのでどうしても歳出カットになってしまう。ただ、歳出カットは非常に厳しい。しかし、そういうところまで踏み込まないと厳しいものがあるというのが私の認識である。</p>
委員	<p>川西市も人口減少で少子高齢化もあり、そういった中で歳出に歯止めをかけていかないといけないが、転入も含めて、何か歳入増加につながるような方策というか、何か見込めないかなど。これから検討していく過程で、費用</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>の部分は減らしていかないといけないのは承知だと思うが、そちらばかりではなく、キセラ川西も数年後にはオープンするので歳入を増やす部分をどういうふうにすればいいかを検討していくのが大きなテーマではないか。</p> <p>委員がおっしゃるとおり歳入確保はいわゆる振興の部分に繋がると思うが、そういう対策を取るという事も非常に重要だとは考えている。キセラの開発、新名神の川西IC開通ということで、まちづくりでも変化が現れる時期なので、総合戦略も含めて考えていくつもりではあるが、まずは歳出抑制の部分の議論をお願いしたい。</p>
委員	<p>組織の見直しの中で職員定数管理等もやっていかないといけない。職員だけでなく市議会議員の定数の見直しもやらないと。これは前期のときに30人態勢から26人にされ、4名減っているが、その部分に関して議員の中でやはり調整加えていただかないといけないと思うが。宝塚は約22万5千人の人口がありながら議員数は24名。川西は約16万人で26名、伊丹は約19万6千人で28名。他市から比べるとやはり議員の定数が多いと思う。ただ議員の中で検討していただくものだと思うが。職員の方々を減らすことに加えて議員の歳費も同次元で減らしながら協力を得ないと、職員だけだと片手落ちではないか、という思いもある。</p>
委員	<p>新名神の関係で新たな企業誘致とかそういったところに働きかけることを市として行っているのか。</p>
事務局	<p>新名神の川西IC周辺につきまして、本市として検討を進めていますが、地元住民の意向等を加味して具体的な内容までは進んでいない。そのあたり、事業者・市・住民と進めている状況である。</p>
委員	<p>土地活用も進められていないとか計画もないということか。</p>
事務局	<p>構想をもって地元の方々と協議を進めている状況ではある。</p>
委員	<p>市の制度の中で早期退職希望制度的なものはあるのか。一般の企業でもかなり導入されているが、特に長期にまたがる費用を削減しようと思えばまず大きいのは人件費だが、希望退職をやると一時はお金がかかるが長期で見ると削減効果が出てくる。</p>
事務局	<p>本市でも勸奨退職という早期退職制度がある。</p>
委員	<p>これまで職員削減に取り組まれており、年齢構成的に新規採用抑制とか、若い世代が空いているので当面採用はしていかないとサービスの持続ができないとか、現在の状況を教えていただきたい。また、キセラの開発についてアステ川西のようにキセラを開発することによって外郭団体にお金が行くという事にはならないのか。</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>職員数について、職員数はかなり減少させてきたが、市民サービスを維持・向上させるためにも、ここ数年で多少増やした。というのは女性職員増加により育児休業が増加したことと、休職者等の対応で、採用を少し増やしているのが現状。</p> <p>今後採用をどうするかという点についてですが、平成15年前後に市の職員採用を凍結した時期があり、現在だいたい30歳後半～40歳でその歳の職員が非常に少ない。ここ最近30歳前後の職員を確保できているので、今後は多く採用するとかは今の時点では必要ないと考えている。</p> <p>アステ川西について、5年ほど前にテコ入れをし、長期貸付をした。皆さんにご利用いただいているアステ市民プラザですが、あそこは元々川西都市開発が持っていたものを市がリニューアルし、現在利用率が上がっている。また、空店舗が多かったところにテナントリーシングを進めてお客様に来て頂けるような店舗を誘致し、段々と業績は上がっている。当面のところ追加で貸付などをしなければならないという見込みはない。</p>
委員	<p>貸付の回収までには至っていないのか。</p>
事務局	<p>回収にはまだしばらくかかると考えている。</p>
会長	<p>職員の数も大事だが、やはり職員のクオリティ、人材育成も非常に大事。今回は組織力の向上というものも挙がっている。まだ少し時間があるために次回の検討内容に入っているが、この部分について説明する事ができればお願いしたい。</p>
事務局	<p>ご説明が出来ていなかった資料6から説明します。こちらは平成29年4月時点での川西市の組織です。トップに市長、下に副市長2名。その下に部を設置しまして、部署によりますが室、その下に課というような組織をとっております。こちらは平成14年度に団塊の世代のかたがたくさんおられた中で組織力を発揮するという事で、部室課の組織に変更した次第であります。</p> <p>現在は団塊の世代が退職された中で、この組織を維持するとなれば、まず課長級補佐級の年齢層が少ない部分と室であっても課と同じような仕事内容になっているという部分があるのが現状でございます。そのあたりの組織の見直しを図る中で、機能的に動ける体制にしなければいけないと考えております。</p> <p>実際に資料7で具体的に説明します。川西市を網掛けで表示しております。部長級についてはそれぞれの組織の大きさがあると思います。室長級につきましても、室・部・次長級のところですが川西市で言うと室長級になりますが、部次長級をとられていないところは、部長級の所に配置されているような自治体もございます。ただ、部長級と次長級を合わせますと構成比の割合ですが、5.9%となっております。一方、尼崎市から下を見ると、割合で言うと部長・次長級を合わせましても本市ほど多くないという構成比に</p>

発言者	発言内容等
	<p>なっております。</p> <p>課長・補佐級ですが、課長級について、川西市の構成比は8.6%です。これについては構成比でいうと他市よりも低い部分があります。しかし補佐級は10.6%となっております。表で申し上げますと課長級以上に、課長補佐級を配置してしまっているという現状です。阪神間と比較して、室長級あるいは補佐級を定数として見直す必要があると考えております。</p> <p>マネジメント能力を向上させるためにも、誰が管理しているのかということも含めて組織体制を見直す必要があると考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。以上の説明をふまえて、何か質問・感想がございましたら。</p>
委員	<p>資料によると職員数が938名で、労務管理費が97億9200万円となっているが、その認識で間違っていないか。中期財政プランの内訳の人件費というのが、労務管理費で給与と他のものも含んでいるのかということ。</p>
事務局	<p>職員給与以外に嘱託・臨時職員の給与や退職手当等も含んでいる。</p>
委員	<p>川西市の職員数938名となっているが、病院や公民館の職員数は入っていないのか。</p>
事務局	<p>水道・病院の企業は除いているが、公民館は教育委員会になるので含んでいる。阪神各市の数字を比較するうえで一般行政職はできるだけ他市の状況を加味した数字になる。実際の数値と若干異なる部分はあるが、あくまで構成比を見ていただきたいという資料にさせていたおかげで、委員がお持ちの資料と若干異なっている部分はあるかと思う。</p>
委員	<p>この組織表を見るにあたって、教育委員会に組織が11課あると思うが、そこを仮に統廃合するようなことはできるのか。</p>
事務局	<p>市の組織を見直すにあたって、方向性を決めた部分については教育委員会にその思いを伝え、同じような形で見直して頂くということも可能です。</p>
委員	<p>一応確認するが、教育委員会を廃止することはできないか。</p>
事務局	<p>できません。</p>
委員	<p>教育委員会の組織体制をどうするかということは考えることが出来るということか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員	<p>教育委員会の組織体制の見直しというか変更も可能であれば、公民館の統</p>

発言者	発言内容等
	<p>合とか委託とか、そういったことも可能なのか。</p>
事務局	<p>教育委員会と協議の上、そういったことも可能です。</p>
委員	<p>川西市で生まれて川西市で子育てをしてきましたが、この現状にショックを受けてしまって、川西市から逃げたいなと思っているのが正直なところです。でも色々対応をしていただくことで、生活している側としてありがたいなと思うような事も多い。窓口ひとつにしても10年程前ならこんな対応があるのと感じていたのが、今は少なくなってきちんと対応していただいているというのを感じる。</p> <p>そこで、組織体制を変えて、昇任ができないとなり、皆さんの意識が下がってしまうのはすごく嫌だなと思う。現状を若い職員の方も把握しているのかなというの正直思っている。</p> <p>教育委員会ではPTAでボランティアさせてもらっていたが、ここ最近頻繁に組織が変わっていたので混乱してしまうという市民の声も実際あるので、そこも考えながら大きなところを変えていただければありがたいと思う。</p>
委員	<p>今まで聞いたことがない言葉がいっぱいあったので正直理解できていないところがある。単純に会社経営していくとして、収入を増やさないといけない、増やせなければ支出をいかに減らすかであるし、大手企業になると特に人件費をカットということをしている。当然そういう事は必要になってくると思う。</p> <p>どうしても公務員となるとそれが嫌で皆さん入られているのかなというのがありますし、公務員のイメージは悪くて。僕たちはお客さんに好かれるためにお客重視でやるが、市役所というそういうイメージが非常に少ない。企業はいかにこの競争社会で自分の所にお客さんを呼ぶかという事をいろいろ考えているが、公務員もサービス面でまだまだやっていくべきことはあると思う。</p>
会長	<p>少なくとも財政状況は非常に厳しいということは共有すべきだと思うが、どうしても財政というのは専門用語が多いし民間の財務諸表と全く違うので非常に読み取るのが難しい。そこはきっちり説明していく必要があると思う。</p>
委員	<p>今日は皆さんと川西市の財政状況がどういうものかというのを、きっちりと認識をして共有する場が大事だと思った。まだまだ把握できていない部分もあるかもしれないが、民間経営をされている側から見れば今日の川西市の財政状況はまだまだ甘い所がある、そこをどんどん次回からご自身であればここを削るとか発言していただければ良いかと。川西市はだいたい330億前後のお金で毎年やっている中で、人件費という部分は3分の1近くを占めているということで、企業ならなかなかありえないし、企業だといろんなことができるが、自治体というのは住民サービスが前提にあるので即何かをで</p>

発言者	発言内容等
	<p>きるというわけではない。</p> <p>今回は私も少し見通しの甘さというのが思っていた以上で、もう少し切り詰めていく部分とドラスティックな改革をこの審議会を出していかなければならないと思っている。私自身は本来は民の活力という事で、川西市の中小企業の方々に活力をもっといただくとか、PR不足を解消して川西市を打ち出して、歳入をどのように増やしていくかという部分話したいが、今日聞いているとやはり歳出を削る部分が先決かなとかなり思った。</p> <p>川西市は給与水準が高いということでいくと、職員の方に認識をしていただき、他市との兼ね合いで我慢していただくということをこの審議会を出していかないといけないと思う。</p> <p>委員の皆様と厳しい部分の膿を先に出すとか先手、先手を打って安定した財政基盤をぜひシミュレーションで作る、最終的に良い答申を出せたらと思っている。</p>
委員	<p>この財政状況などを職員の方々はどういう風を感じているのか、簡単でも説明できるのであればしていただきたい。</p>
事務局	<p>職員の意識について、川西市の財政状況が厳しいというのは庁内では話しには聞くが、実際にどれくらい厳しくて、給料がどういう水準になっているかということをもっと理解しないといけないような風潮になっているのではないかと感じている。</p>
会長	<p>企業と行政は行動原理が違って、行政は利益を追求するものではなく、何の為に働いているのかという意識付けをすることが極めて難しい。マネジメントの考え方をどのように浸透させるのかがすごく大事。動機付けをしてあげないと、なかなか人材は育成できないというのが根本にある。</p> <p>前期の行財政計画がどう進んでいるかということも、ここに来る前に資料を出して頂いて色々見させてもらったが、利益を追求できないので、例えばイベントに来た人の数とかそういう成果を指標にする。この指標をもってこの事業はきちりできているかチェックしていく。行革に関する報告書を見させてもらっているが中には成果はあまりよくないのに、事業自体は維持すべきとされているものが、書かれたものがある。</p> <p>本当はそういうところからチェックしないといけないのかなと思う。今日の話は基本的にマクロな話しをしていて、病院は非常に大きい話だし、人件費の話も非常に大きな話だが、そういうところから手を付けないというのは間違いではないが、コアな部分は非常にミクロな部分にあると私は思っている。そういうミクロの部分もきちりマネジメントできるような審議をしていかないといけない。同じ金額を使うなら効果のあるお金の使い方してもらわないといけない。そういうようなことを考えられる組織にしないといけないし、財政運営をしないといけないというのが今日のこの会を締めたいと思う。</p> <p>審議会の冒頭で触れられましたように、会議録については発言要旨を事務</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>局でまとめてもらうこととし、各委員の発言については名前を伏せることといたします。また、会議録の承認については、会長である私が承認させていただきますのでよろしいでしょうか。</p> <p>〈異議なし〉</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>本日の議事は以上でございますので、一旦事務局にマイクをお返しいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>皆様、どうもありがとうございました。</p> <p>今回は、組織力の向上ということで、組織のあり方や人材育成の推進についてご審議いただきたいと考えております。資料6、7を参考にさせていただければと思っています。なお、お配りする資料については、事前に皆さまへお送りさせていただき予定としております。</p> <p>次回の日程につきましては、第2回を6月26日（月）に開催させていただき予定としておりますので、皆さまご多忙かと存じますが、ご出席の程よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、第3回及び第4回につきましては、お配りしています日程調整表にご記入のうえ、期日までに事務局へご提出いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。 本日は誠にありがとうございました。</p>